

太田市における外国にルーツを 持つ子どもたちへの日本語学習 支援について

本日の内容

01

太田市の概要

02

太田市の取り組み（日本語学習支援）

03

外国人児童生徒放課後学習支援事業

- (1) 背景（課題）

- (2-1～4) 事業開始に至るまで

- (3-1～2) 成果

- (4-1) 課題（統括責任者目線）

- (4-2) 課題（運用）

- (5-1) 今後の展望（統括責任者目線）

- (5-2) 今後の展望（運用）

04

太田市が目指すところ

01 太田市の概要

【人口】

221,774人（令和8年8月末時点）

【外国人市民数】

17,312人（令和8年8月末時点）

外国人市民率
約7.8%

【国籍別（72か国）】

- 1位 ブラジル
- 2位 ベトナム
- 3位 フィリピン

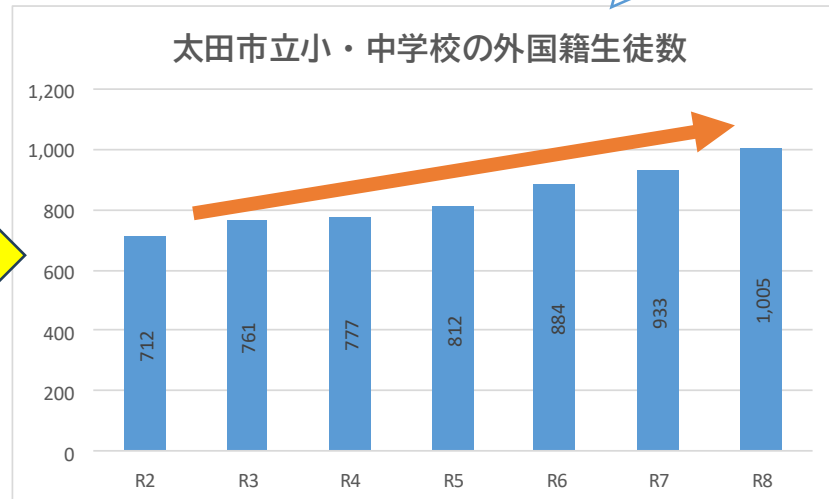
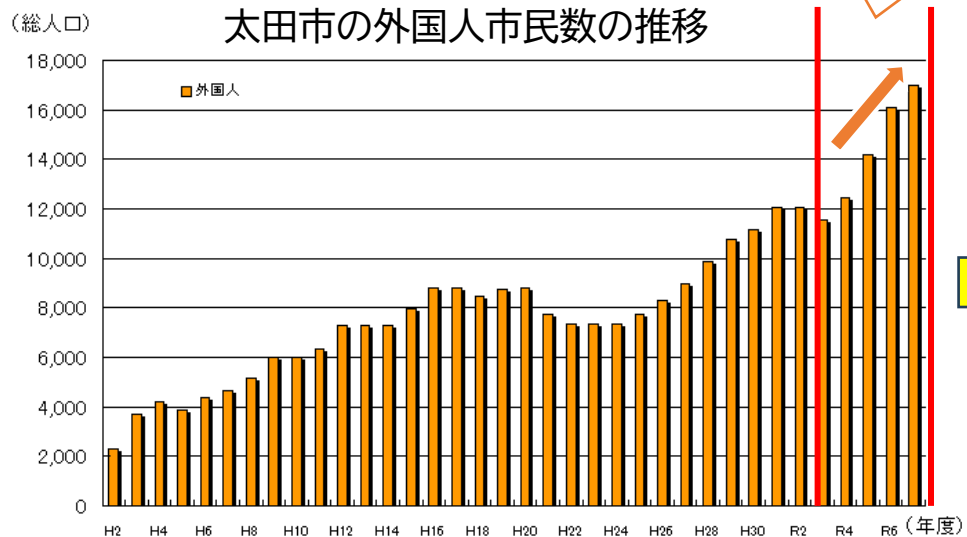


01 太田市の概要

【太田市の外国人市民数の推移および太田市立小・中学校の外国籍生徒数】

平均約1,000人/年増加

年々増加傾向・多国籍化



02 太田市の取り組み（日本語学習支援）



01 プレクラスひまわり教室

太田市初期指導教室の開設。新規に転入した外国籍の児童生徒に対し、学校へ通い始める前の初期の日本語指導や、学校生活への適応指導を集中的に行うための教室。

教育委員会



02 ブロック別集中校

外国人児童生徒教育ブロック別集中校システム。市内小中学校をブロックに分け、生徒の在籍状況が集中している学校を「集中校」に指定し、リソースを傾斜配置する。

教育委員会

03 専門スタッフの配置

バイリンガル教員・日本語指導員の配置。複数の言語（ポルトガル語、英語、ベトナム語、中国語等）に対応可能な指導スタッフを適正に配置し、きめ細かな学習補助や通訳を行う。



教育委員会

04 外国人児童生徒放課後学習支援事業

外国にルーツを持つ児童生徒向け放課後学習支援事業（R6.12～開始）。多文化共生センターおおたを拠点とし、日常学習習慣の確立や、日本語能力と教科学力の双方を支援する。



国際課
国際交流協会

(1) 背景（課題）



①学校現場の限界

急激な増加により、学校単独での学習指導対応が不十分な状態。



②進路選択のミスマッチ

外国籍児童生徒の学習能力や就職に適した進路選択ができていない。



③学習場所の不足

児童生徒が放課後に授業で理解できなかった内容を学べる場所が市内にほとんど存在しない。



④母国語指導の必要性

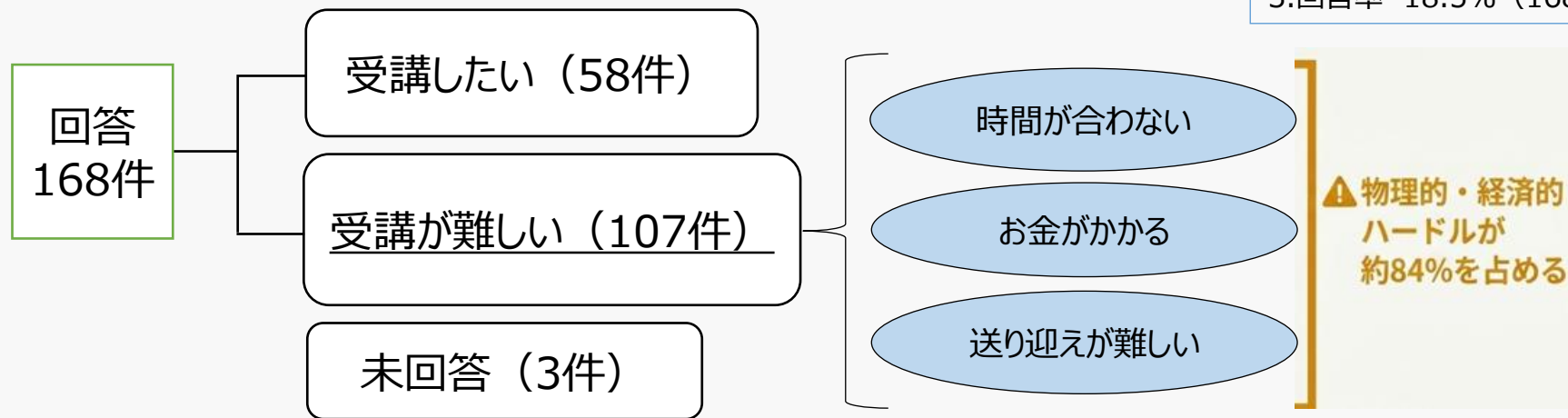
母国語指導による学習を経ないと学習内容が定着しない児童生徒も多く、基礎学力が身につかない。



学校外(放課後)で学習支援と日本語指導の提供が必要。

(2-1) 事業開始に至るまで

◎アンケート調査によるニーズ把握



1. 調査期間
R6.5.17～R6.5.24
2. 調査対象
外国籍児童生徒及びその保護者
(対象者905名)
3. 回答率 18.5% (168名)

結論：潜在的な学習ニーズは確実にあるが、アクセス環境の整備が課題

03 外国人児童生徒放課後学習支援事業



(2-2) 事業開始に至るまで

時間が合わない



16:00～18:00
→16:30～18:45に変更

お金がかかる



月額1,000円

送り迎えが難しい



公共交通機関の
利用方法周知

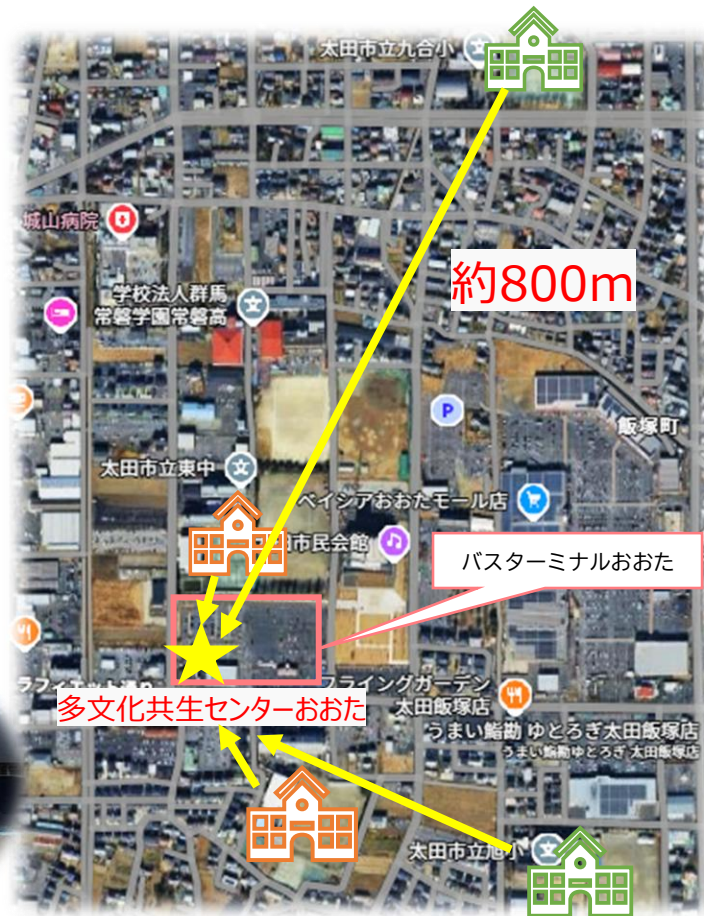
会場 多文化共生センターおおた (R6.12.1開所)

☆ 外国籍生徒が多く居住する地域に近接

市内公立41校のうち、近隣4校(約800m以内)に
外国籍生徒の **約20.5%** が集中。(R6.4月時点)

☆ 公共交通機関で通所可能

バスターミナルおおた内に位置し、
電車・バスを利用した通所が可能。

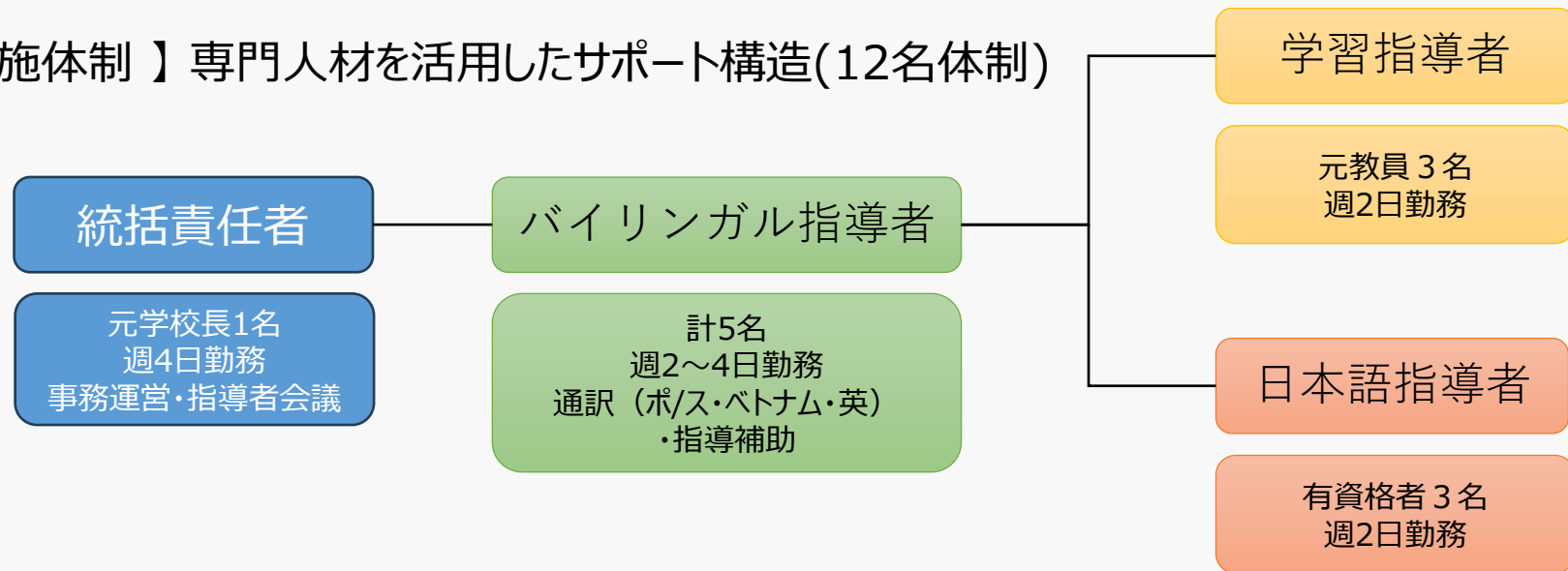


03 外国人児童生徒放課後学習支援事業



(2-3) 事業開始に至るまで

【実施体制】専門人材を活用したサポート構造(12名体制)



児童生徒の習熟度に応じた個別指導体制を構築

03 外国人児童生徒放課後学習支援事業



(2-4) 事業開始に至るまで

事業概要：2つの柱による放課後学習支援

対象：小学4年生～中学3年生

「個別指導による学習支援」



目的：学習習慣の確立と意欲の向上。

「日本語指導」



目的：教科学習力および日本語学力の向上。

頻度：週2回 / 1回60分

費用：月額1,000円

特記事項：保護者向け日本語教室も併催 (月額1,000円)

R7.4.1～

実施スケジュール：学年に合わせた二部制指導

	月	火	水	木	金
16:30～17:30 小学校4～6年生	学習支援Ⅰ		日本語指導Ⅰ	学習支援Ⅰ	日本語指導Ⅰ
17:45～18:45 中学校1～3年生	学習支援Ⅱ		日本語指導Ⅱ	学習支援Ⅱ	日本語指導Ⅱ

家族ぐるみの支援体制の構築

(3-1) 成果

◎受講者

事業開始：R6.12～

	人数	内訳		保護者向け
R6年度	31名	小学生 18名	中学生 13名	-未実施-
R7年度	42名	小学生 15名	中学生 27名	9名
R8年度（9月末）	34名	小学生 12名	中学生 22名	4名

◎卒業生（中学3年生）

	人数	性別	進路	進学先
R6年度	5名	男 1名 女 4名	進学 4名 不明 1名	全日制高校 2名 定時制高校 1名 夜間中学校 1名
R7年度	6名	男 3名 女 3名	進学 4名 不明 2名	全日制高校 3名 （内工業高校 2名） 定時制高校 1名

03 外国人児童生徒放課後学習支援事業



(3-2) 成果



多文化共生センターおおたが、外国籍児童生徒への真の支援拠点として機能

(4-1) 課題（統括責任者目線）

学習支援について



◆ 日常会話はできても、教科書で使用されている抽象的な表現や専門的な用語などを理解することが難しい児童生徒への対応。

◆ 支援を必要としているものの、家庭の経済的事情や送迎等の理由により参加できない児童生徒への支援。

◆ 日本語の理解に課題があるだけでなく、発達面等について特別な支援を必要とする児童生徒への対応。

日本語指導について



◆ 漢字の読み書きの習得に時間を要する児童生徒への対応。

◆ 日本語の文章を読み取る力や、日本語で自分の考えを表現する力などを効果的に育成するための指導方法の工夫。

(4-2) 課題（運用）



人材の育成

指導者（希望者）の育成・受け入れ環境が未整備。
統括責任者の後継者や会場増設時の指導者の人材確保に繋がるため整備が必要。



環境整備

近隣の学校以外の受講者が少ない。
増加する外国籍の児童生徒を受け入れていくため、送迎手段や会場の増設の検討も必要。



予算の確保

財政逼迫のため予算の確保が困難。
受講者が増えることで更なる支出が想定される。

(5-1) 今後の展望（統括責任者目線）

学習支援について



◆ 学校との連携をより密にし、学校での学習状況等を踏まえながら、児童生徒一人一人に応じた支援を充実させていきたい。

◆ 家庭の経済的事情や送迎等の理由により参加できない児童生徒についても、関係機関等と連携しながら、一人でも多くの児童生徒を支援できるよう取り組んでいきたい。

日本語指導について



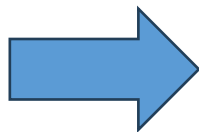
◆ 児童生徒の日本語能力や学習状況に応じて教材を工夫し、日本語によるコミュニケーション能力や学習に必要な日本語能力の向上を図りたい。

◆ 教科書の内容を理解し、学習に参加するために必要な「学習言語能力」を身につけられるよう、指導の充実を図りたい。

(5-2) 今後の展望（運用）

課題

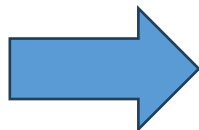
▲人材の育成



今後の展望

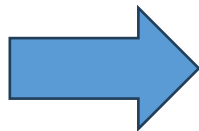
- 指導者（希望者）の育成・受け入れ環境の整備。
- 教育委員会と連携・情報交換。

▲環境整備



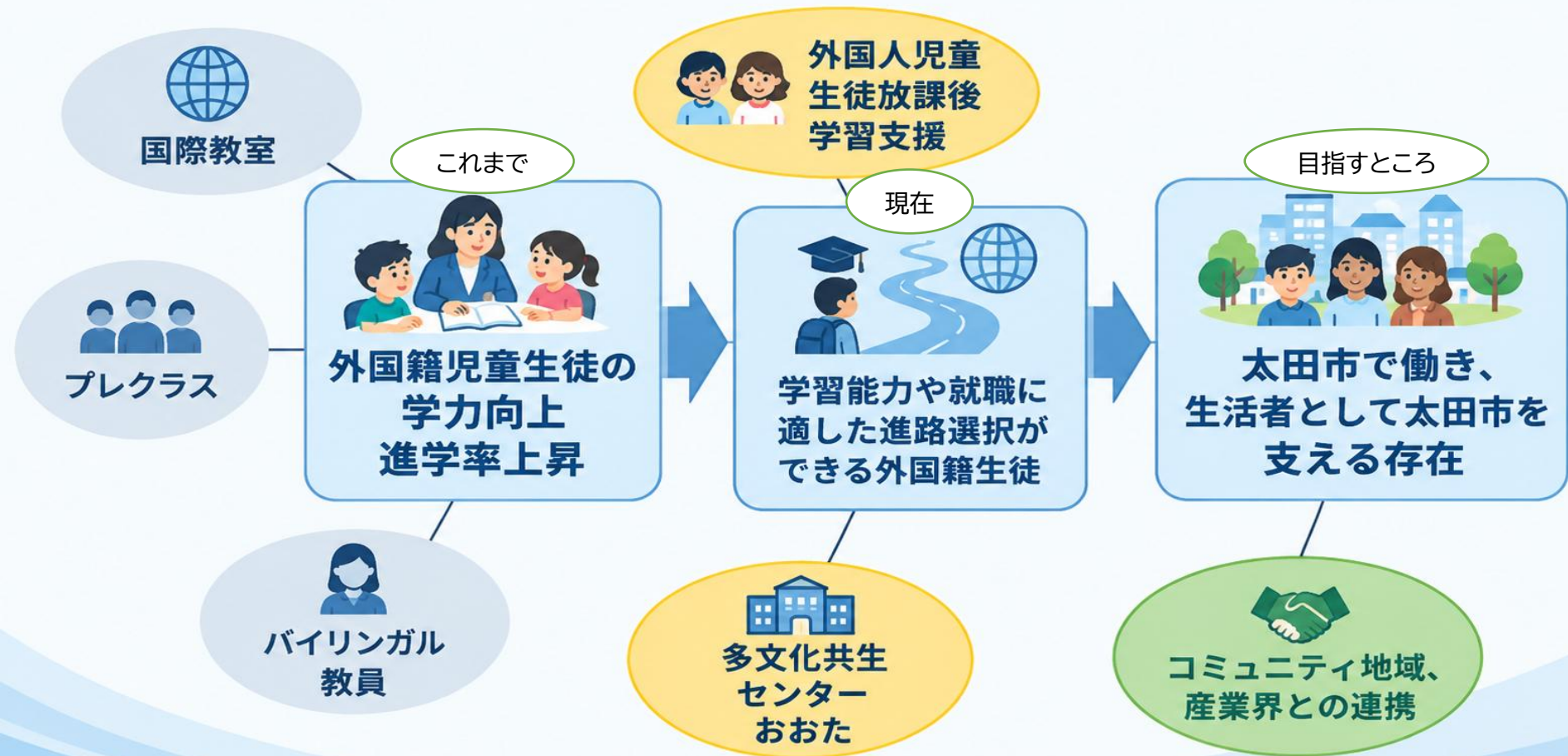
- 市バスの活用等による送迎手段の検討。
- 外国人児童生徒が多い地区の会場の増設の検討。

▲予算の確保



- 補助金の活用を検討。
（帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業：文科省）
- 月謝料の見直しの検討。

04 太田市が目指すところ



ご清聴ありがとうございました